

流し雛に添へて川に流し乳の出るやうに祈る。顔面稍突出し眼裂を細く畫けるを特長とす。

二七二

松山市

愛媛縣温泉郡道後町 湯神社内子守さ 祠 (瓦)

瓦製にして種々の屋根の形に作る、乳の出るやうに社に祈り、心願成就の曉は一個を奉納す、之に似たる瓦製の祠は河内南河内郡千早村附近にあり、各家の庭の隅に置き二つの圓き石を入れ道祖神を祀る、又三河磯神にも奉納す。

(□) 食 詰 り

東京市淺草仲店 鳩 (土)

今戸焼にして六七分あり。之を喫飯時食膳に供へ置くときは食に噎ぶことなしといふ、寛政五六年頃に始まり、初は其形鳩の大きあり、流行につれ後には他の縁日にも筵の上にも並べて賣りしと今絶わたり。

(三)

疾病の呪禁に關する玩具

(イ) むし除け

京都市 壬生寺 蟲除面 (張子)

之を寢室の天井に吊し置けばむし除けとなるといふ。直径二寸程のお福の小面にして額に梵字類に壬生寺の印あり、長さ尺ばかりの青竹の先に紙縫にて吊す、節分及大念佛開催中寺より授與す大念佛中に出すものは竹の先に紙の丈長を挿み、それに壬生寺の朱印あり。

静岡縣磐田郡御厨村鎌田 鎌田神明宮 ヒトガタ (紙)

大中小ある中の小さきものを蟲封じとして神社より三體を出し一日一體を撫で、後川に流す。第二回目よりヒトガタを出さずお札を出す。

京都市五條阪 蟲除犬 (土)

三個を紙に包み水引をかけ神棚に祀り置くこと伏見一文狗と同様なり。子供の蟲除けとなるといふ。

大阪市住吉區住吉神社前 狗 (土)

神棚に祀り置けば小兒のむし除けとなるといふ。住吉人形の種類、座れるものと、立ちたるものと二種。「むし」とは不機嫌、全身倦怠、食思不振等の症状あるもの、總稱なり。

愛媛縣温泉郡道後町 伊佐爾波神社 鳩 (瓦、土)

子供の蟲除けを祈願して奉納す。

静岡縣周智郡一ノ宮村小國神社 弓 (鐵)

むし封じを祈願し、願果しとして鐵製の小弓を奉納す。

同縣磐田郡 南御厨村字鎌田 鎌田神明宮 鎌 (鐵)

初め子供の著物を持參してむし封じの祈禱を受けそれより毎年の暮初作りを上げ、御守を貰ひ、九歳の時願果しとして鎌を奉納す。

仙臺市控木通國分寺 木下藥師堂 ボンボコ槍

舊三月三日の縁日に境内にて賣る、求めて小兒の「むし切り」の呪禁とす。

(口) 夜啼

静岡縣有渡郡石田村 アコオ神社 首人形

小兒夜啼きの癖ある時、その止むやうに祈つて之を奉納す。アコオは惡王にて人を食ふ神なりと傳ふ。

京都府綴喜郡八幡町 男山八幡宮前 楠鳩 (木)

大小あり、裏面に男山(以前のもの)又は石清水の焼印あり。之を求め來つて神棚に祀り倒し置き夜啼き止めば起す。

島根縣八束郡竹矢村大字矢田 お子守神社 草履 (藁)

夜啼きの治癒を祈り神前に在る草履一足を借り來り、之を神棚に祀り、治癒すれば新らしき一足を添へて返す。今は人形等小兒の日常用ふるものを代用す。

(ハ) 瘡除

神戸市長田 明泉寺 牛 (土)

俗に大日寺と稱す、本尊に瘡の治癒を祈れば寺にて祈禱の後牛一個を授く、黒色の臥牛にして額

に寶珠及大日如來の像あり、瘡ゆれば二個にして奉納す。今は土牛の代りに牛の繪馬を受けそれにて患部を撫で同時に受くる髮油を患部に塗り一週間祀り、治癒すれば姓名年齢を記して同じ形の繪馬一を求め二個にして奉納す。

和歌山市 高野寺お牛さん 牛 (瓦)

奉納せる一個を借りて瘡のある部分を撫で神棚に祀り、治癒すれば新らしき一體を添へて返納す。

和歌山市豊原町 延壽院 馬 (土)

奉納せる馬一個を受け來つて之にて患部を撫で祀り置き、瘡ゆれば一個を添へ奉納す。

和歌山縣那賀郡粉河町 皆乗寺藥師堂 杓 (木)

俗に杓藥師と云はる 祈願者の持參したる杓の裏へ「戒」と云ふ字を三遍書いては消し其上に灸をすへて、瘡の上に持ち行き藥師如來の眞言を三遍唱ふ、其後其杓を奉納す。

丹後地方 笠 (竹)

瘡の治癒を祈り、全快後笠を奉納す。

(二) 疱瘡除

大阪市 猩々達磨 (張子)

赤き毛を被り酒盃を持てる猩々の起上りなり。前面に雪中松のくづしを畫く、疱瘡として祀る、今なし。

奈良市油阪町 達磨 (張子)

サンダワラの上に赤紙を敷き幣束、菓子、米、赤飯と共に乗せて辻に捨て、疱瘡神を送る。今大阪製を用ふること多し。

福島市附近 達磨 (張子)

神棚に祀り疱瘡除けとす。大小あり。

會津若松市附近 達磨 (張子)

小兒の疱瘡に罹れる際又は疱瘡流行時には之を神棚に祀り、疱瘡の軽く濟むこと又は疱瘡の厄を
除くるやう祈る。

富山市 疱瘡除人形 (土)

二七八

男女一對の神像なり、之を神棚に祀れば、疱瘡に罹ることなしと、又罹るも軽く経過すといふ。

東京府南葛飾郡金町村 半田稻荷 猿 (土) 狐 (土)

小兒の疱瘡の軽く濟むやう、又疱瘡に罹らぬやう祈る者は、土の猿を社に持ち行きて祈願を籠め、已に厄を濟したる家より神前に納め置ける猿とひきかへ、持ち歸りて家へ祀り、疱瘡の濟まぬ間は毎年引き替へに行き、無難に厄をはたせば、豫め受け置きたる猿に猶一個の猿を添へ、赤幟に「奉納半田稻荷大明神」と書いて、之を携へ行き社前に報賽す。現今は社より土の狐を「疱瘡除守」と共に授け、疱瘡を除け得れば二個にして奉納す。江戸時代には此金町附近より「半田稻荷」と稱する坊主多く町に出たり、その服装は茜木綿の法衣を裾みじかに着げ、同じ色の頭巾の鉢巻附きたるをかぶり、同じ色の脚半を穿ち、すべて眞赤に装ひ、赤幟に「半田稻荷大明神」と書きたるものを持ち、脊に大なる飯杓子を負ひ、胸に小筐をかけ、此筐の内に土猿を入れ、人々の乞ひに應じて、猿の引き替へをなし、錢を得れば、幟をかたげ又はまはして、足拍子面白く「葛西金町、半田の稻荷、疱瘡も軽いな、麻疹も軽いな」と繰り返し謳ひつゝ、踊りしといふ。今社にて狐を出す理由は、猿は半可山人の狂詩「信心堅固救諸人、幟赤猿紅靈驗新、輕矣疱瘡與麻疹にて狐を出す理由は、猿は半可山人の狂詩「信心堅固救諸人、幟赤猿紅靈驗新、輕矣疱瘡與麻疹

疹、半田稻荷大明神」を誤り傳へられたるものにて狐を正しとすと云へり。

和歌山縣日高郡御坊町附近 瓢箪 (桑ノ木)

瓢箪の形を桑の木もて手作りしもの、之を子供の首に懸け置けば疱瘡流行する時も罹ることなしといふ。(後出疫病除参照)

松本市附近 赤幣束 (紙、竹)

小さき赤き幣束を作り、疱瘡患者の體を撫でたる後、一尺四方程の蔑を組みし簀狀の棚に立てたるまゝ、四辻又は小さき祠ある森の中につるす。之を「疱瘡流し」又は「疱瘡送り」といふ。同様の風習松江市附近にもあり。

京都市附近 爲朝の繪馬 (板)

疱瘡除を祈り神社に奉納す。

(木) 麻疹除

東京府南葛飾郡金町村 半田稻荷 猿 (土) 狐 (土)

二七九

既出疱瘡除のものと同じ。同時に麻疹除守を添へて授く。

和歌山縣西牟婁郡田邊町附近 瓢箪 (桑ノ木)

自家にて桑の木を削りて作る、之を常に小兒の腰に下げ置くときは、麻疹に罹るも軽く済むといふ。

神戸市附近 サンダワラ (藁)

麻疹の経過軽きやう祈り、サンダワラの小作りのものに赤飯を乗せて辻に捨つ。

(へ) 馬脾風除け

仙台市 蠣崎神社 白杵 (木)

之を小兒の腰に吊し置けば馬脾風 (方言バイファー、ヂフテリアを云ふ) を避け得るといふ。蠣崎神社は伊達政宗の愛馬ゴトローが老衰し、主と共に戦場に出る能はざるを悲み、城南の崖より自ら身を投じて死せるを祀れる社なりといひ、馬上神と稱し、俗にゴトハカさんと呼ぶ。境内に馬頭観音の碑多し。

(ト) 百日咳除

島根縣八束郡揖屋村附近 杵 (木)

白南天の樹を小兒の手に握らせて、丁度小兒の手の幅即ち握りて兩端が手より外に出でざる程度に切り、之を杵狀に削り、兩端の樹皮はその儘残し置きたるもの、之を小兒の腰に下ぐるときは百日咳を避くることを得るといふ。

東京市淺草仲店 杵、手槌、瓢箪 (木)

前同様白南天の樹を切り作りたるもの、杵の形は前のものと全く同じ、手槌は樹皮のまゝ一端を削りて手を作る。此三個を一とくゝりとし腰に下げれば、百日咳に罹ることなしといふ。手槌は同様のものを百日咳の呪禁として神戸市内某所にも賣るといふ。(今其場所を詳にせず。)

茨城縣土浦町 お玉杵子 (木)

お玉杵子に「百日咳堅く無用」と記し「子供の名、生年月日」を共に書し軒端若くは天井に打ち付け置くときは、百日咳除となる。又杵子に目を描き鉢巻をさせ門又は垣根に挿し置く地方あり。

(チ) 寝小便除

京都府愛宕郡松尾村、梯子地藏 梯子 (木、竹)
大小種々、寝小便の止むやうに祈つて奉納す。

和歌山縣日高郡志賀村小池^{オイケ} 地藏堂 カラスキ (木)

農具の鋤の形を小さく木にて作れるもの、寝小便の治癒を祈り、男兒なれば之を奉納す。

同縣 同郡 同村 同 チキリ (木)

地方によりてはチキリとも稱す、機を織るに用ふる器なり、女兒の寝小便癖ある時、其治癒を祈り、この形を小さく模して奉納す。

(リ) 疫病除

神戸市兵庫邊 達磨 (張子)

病氣にかゝりし時、之を病兒の枕頭に置くときは早く治るといふ、起き上るといふ縁喜なり。今

多く名古屋製を用ふ。

和歌山縣日高郡御坊町附近 瓢箪 (桑ノ木) (前出)

手作りのもの、之を子供の腰に下げ居れば疫病に罹ることなしといふ。

名古屋市西區茶屋町 那古野神社 笹提灯 (竹、紙)

毎年七月十六日の大祭に社より頒つ、之を門口につるし置くときは、子供の夏病みを避くることを得るといふ。

長野縣小縣郡神川村 國分寺薬師堂 蘇民將來 (木)

毎年正月八日本堂に安じ、祈禱を修し、賽者に頒つ、其最も小なる全長約三寸程のものは、幼兒の腰又は脊につるし置けば災厄を除くといふ。大福長者蘇民將來子孫人也と一面に二字づゝ記したる塔婆形のものなり。その地方にては「シユミンチヨウライ」といふ。

仙台市控木通 國分寺木ノ下薬師堂 蘇民將來 (木)

毎年舊三月三日寺より頒つ、之を幼兒の腰又は脊につるし置くときは災厄を避くるといふ。各面に「ソミンソーライ」と各一字を記し並に梵字一字を記す。形前者に似青黒赤黄にて各面を彩り

中心に紙縊を挿し其末に麻苧を附す。

京都府龜山町附近 庚申堂 括り猿 (布)

子供の病氣の際、庚申堂に願をかけ奉納しある括り猿一個を借り來つて、之を子供の腰につるし病癒たる後七個を作り奉納す。

松本市附近 子安地藏 括り猿 (布)

疫病除として六部(お子安さん、カンカンモともいふ)の厨子中の括り猿を借り來り背守(せまぶり)(一つ身の脊縫の襟ぎはに縫ひ着くること)となし願果しとしては百疋又は千疋を作りて返へす。

上田市 道祖神 藁馬 (藁)

二月八日道祖神の祭を行ふ。其時小さき車に藁馬を乗せ、黄な粉をつけたる餅の藁苞に入れたるを附け、子守に負はれ或は手を引かれつゝ詣で、他兒の供へたる藁苞と自分のとを取り換へ再び馬に負はせ引きて歸る。其餅を喰へば一年健康なりといふ。

京都市 友引人形 (土)

子供一人死したる時、其葬式が友引の日に當る時はその子供の友達が病氣に罹るを避る爲に、此人形を棺に入れて共に葬る。子供五人又は六人連続して「子取る」の遊をなせる如き土偶なり。

(又) 怪我除

京都市清水 色瓢箪 (瓢)

小さき瓢箪を色づけ、處々金箔を置けるものなり、之を子供の腰に下げ置けば、つまづき倒れし時も怪我せずといふ。

神戸市附近 小瓢箪 (木)

小さき瓢箪の木にて作りしものなり、之を常に腰に下げ置けば怪我せずといふ。

(ル) 涎止め

和歌山縣日高郡御坊町附近 涎かけ (布)

涎の甚しく出る子供ある時―之を此地方で涎くりと稱す―涎かけを地藏尊に奉納して、その止むやうに祈願す。

(オ) 頭痛除

和歌山縣海草郡東山東村 伊太木曾神社 笠 (薄板)

社を俗に山東さんとうさんと稱す、當社に參詣し、之を求め頭に頂たまときは頭痛に悩むことなしと云ふ。

(ウ) 魔除け

松本市附近 背守(せまぶり) (布)

子供の一つ身の衣服に限り脊縫の襟際に縫ひつける種々の意匠の布製の縫ひものを「せまぶり」といふ、意匠の材料としては「桃の實」「くくり猿」などを多く用ふ。魔除けとなるを稱す。

廣島縣加茂郡地方 背守(せまもり)の括り猿 (布)

子供の一つ身に限り、脊縫の襟際に、白、赤トキ色の三個のくくり猿を糸にて縫ひつく。庚申の

三猿に象りたるものといふ。桃の實の縫くるみを附する家もあり。

島根縣八束郡揖屋村地方 背守(せまもり)の桃

前者と同様に一つ身の脊縫に、布製桃形の縫くるみを附す。

長崎市附近 背守のくくり猿 (布)

赤又は桃色の括り猿を、満一歳位より脊縫に附し魔除とす。之を附するときは無事に育つといふ

(カ) 入浴を好むやうに

奈良市 興福寺南圓堂 入浴の繪馬 (木)

入浴を嫌ふ子供ある時、之を奉納して入浴を好むやうに祈る。母子入浴する状を畫きしものは古く、今は子供一人入浴する様を畫く。

奈良縣生駒郡法隆寺村 法隆寺峰の薬師堂 入浴の繪馬 (木)

前者と同じ。

奈良縣生駒郡山町 垢抓湯浴薬師堂 入浴の繪馬 (木)

小兒一人入浴し、前に衣服懸けある圖なり。

(四) 幸福を祈るもの

京都府愛宕郡修學院村馬野 三宅八幡宮前 弓矢 (竹)

八幡宮に詣り子供の武運長久を祈りて求む。

京都府紀伊郡深草町 伏見稻荷神社前 弓矢 (竹)

同前、稻荷に參詣せし者土産として求め、子供に贈ること男山八幡前と同じ。武運長久を祈るといふ。

兵庫縣東志方村 弓矢 (竹)

初正月を迎へし男兒ある家にて、之を求め飾る。

愛知縣幡豆郡西尾町附近 破魔弓 (木、紙、布)

初正月を迎へし男兒及女兒に贈る。男兒のものは弓矢に、籠、松竹梅、鯉、大福帳、押繪武者、鶴龜、造花等を附し、女兒に贈るものは、最上部に鶴龜の模様を畫ける薄板製末廣を附し(鶴を畫く)、毬、羽子板、羽根、松竹梅、押繪の娘等を附す。

静岡市附近 破魔弓 (木、紙、竹)

初めて正月を迎へる男兒に贈り、武運長久を祈る。

東京市 破魔弓 (竹、紙、木)

二張立の飾り弓に矢を添へ、その上に松竹梅を附す。年末より年始にかけ、其年初めて正月を迎ふる男兒ある家に贈りて祝ふ。又淺草年の市にて鬻ぐものは歳徳神を附す。贈り方同前

東京市近在 破魔弓 (木、竹等)

弓矢に寶迎、鯉、鶴等を附す。初正月を迎ふる男兒に贈る。

尾の道市附近 破魔弓 (木、竹等)

初正月を迎ふる男兒に贈る。

山口縣阿武郡萩町 二張立(にちようだち) (木、竹、紙)

弓二張に矢を飾りたるもの、初めての正月を迎へる男兒に贈りて生ひ先を祝ふ。

高知市附近 破魔弓 (紙、竹等)

初正月を迎へし男兒に贈る、冑、弓矢、松等を一つの箱に納めたるまゝ飾る

松江市附近 破魔弓 (竹、紙、布)

二張立の黒塗の弓に、金紙の羽根を附したる矢數本を添へ、中央に長き籠状のものあり、その上に紙鶴を附す、初めての正月を迎ふる男兒に贈り祝ふ。

島根縣八束郡千酌村 破魔弓 (同前)

松江のものと殆ど同じ

熊本縣宇土郡宇土町 ハンキユハナユミ (紙、竹等)

初正月を迎へる男兒に年末より年の初にかけ贈ること前者と同じハンキユは半弓の意かといふ。

濱松市附近 犬張子 (張子)

男兒生れて一ヶ月の誕生日を宮詣りと稱し、氏神に詣る、其際祝として親戚知己より之を贈る。

静岡市附近 犬張子 (張子)

形殆ど前者と同じ、贈り方も亦同じ。

神戸市附近 振槌 (張子)

初めての正月を迎ふる男の子に之を贈る。赤地に金色の寶珠を書けるものなり。

名古屋市附近 振槌 (張子)

初正月を迎ふる男兒に贈り福運を祈る。白地に群青の波模様を書き赤き張子の鯛を附したり。

兵庫縣東志方村 羽子板 (木)

初正月を迎へたる女兒ある家にては、之を求めて新春に飾る、今特有のもの亡ぶ。

甲府市 羽子板 (木)

初めて正月を迎へる女の子ある家へ贈る、胡粉地に菊花模様を紫にて書き、裏に墨一筆にて竹を畫く。

福島縣田村郡高野村高柴 羽子板 (木)

三春附近にては一般に、女兒出生後初めての正月を迎ふる時、其家に贈り之を飾つて將來の幸を祈る。三春羽子板として古來名あるもの、今絶ゆ。

島根縣八束郡揖屋村地方 羽子板 (木)

初正月を返ふる女兒に贈る。今特有のもの絶わ習俗のみ存す。

鳥取縣八頭郡社村 羽子板 (木)

正月十日の市に賣る。初正月を迎へる女兒のある家へ贈ること前者と同じ、特有のもの今絶ゆ。

山口縣阿武郡萩町地方 羽子板 (木)

初正月を迎へる女の子に贈ること前者と同じ今特有のもの亡びたり。

熊本縣球磨郡人吉町附近 羽子板 (木)

毎年舊正月の初市に賣る。之を求めて初正月を迎へし女兒に贈る。中央に椿の花を書き上下に赤黄の線を引く。

熊本縣宇土郡宇土町 羽子板 (木)

毎年舊二月の初市に求め之を初正月を迎へし女兒に贈る。今特有のもの絶わ貼り繪のものを用ふ。

島根縣八束郡揖屋村地方 手毬 (糸)

三月に初めて節句を迎ふる女兒に贈り、桃の枝につるして雛と共に雛段に飾る、種々の色糸にて飾りたる美しくしきものなり。

山口縣阿武郡萩町地方 手毬 (糸)

初正月を迎ふる女兒に贈る。大なる手毬にて美しくしき彩糸にて飾る。

濱松市附近 凧 (紙)

男兒の初節句の祝として五月に贈る。大なるものを贈る場合多し。

高知市附近 凧 (紙、竹)

初めての春を迎へたる男兒には「初凧」と稱して凧を贈る。特に大なるものを選ぶ場合多し。生れるや否や男なるか女なるかを聞き合せ、男なれば前年より大なる凧を用意すといふ。

讚岐一圓 姫御前様 (紙)

二九四

男女一對の紙雛。八朔即ち八月一日に其年女兒の出生したる家より此紙雛につまぐれの花を添へ親戚知己へ贈りて祝ふ。然る時は贈られし方は之に相當したるものを返禮として其子の生ひ先を祝ふ。

松本市 七夕さん(七夕雛) (紙及木)

板を十字形に交叉して之に顔を書きたる男女一對のものと、紙製男女一對の雛をつるすやうに作りたるものと二種あり、男女の初産兒ある家に贈り幸福を祈る。贈られし家にては之を七夕に吊す。古くは家々の前に竹を立て連ねてそれに繩を張り渡し、その繩に此雛をつるしたりといふ。又昔は此板製のものに其女兒の衣服をその十字形の肩より着せて、其子の將來の福運を祈りしといふ今は此ものに昆布の着物を着せてつるす。

熊本縣宇土郡宇土町 相撲取 (張子)

初正月を迎へたる男兒ある時、その子の生ひ先を祝つて初春の贈り物とす大小數種あり。

熊本縣宇土郡宇土町 戰の繪卷物 (紙)

幟と共に五月初節句を迎へる男兒に贈り祝ふ。初節句の際は家の軒に張りめぐらす。西南戰爭等の繪多しといふ。

徳島縣勝浦郡多賀良村地方 ノゴウさんの藁馬 (藁) 藁牛 (同上)

毎年舊九月九日新藁を以て牛馬を作り、子供等之を牽き附近のノゴウさんの社に至り、鳥居を三回廻りて之を其處に置き捨て又は其邊の木にくくりつけ置くか或は持ち歸りて玩具とす、然るときは子供等息歳に育つといふ。

茨城縣那珂郡村松村 虚空藏 板馬 (木)

板を馬形に簡單に切り板の臺を附し、赤黄黒青にて彩る、形素朴なり。形により羽子板馬とも、製作地名より龜作馬とも云ふ、毎年正月十五日と三月十三日の縁日に賣る。三月十三日は十三詣りと稱し、十三歳となりし女子は虚空藏より智慧を授るとて多く參詣す、その時境内にて之を求め「開運馬」と稱して喜び持ち歸る。此馬の中心部に畫ける形をリングの形なりと説く人もあり。

大阪市住吉區住吉 住吉神社前 青面金剛 (土)

猿の上下を着したるものが大小の刀をさせる土偶なり、之をもて遊べば長壽を得るといふ。

二九五

京都府綴喜郡八幡町 石清水八幡宮前 鯉 (紙)

石清水八幡宮に詣で、子供の出世を祈り、之を求め歸る、一に「出世鯉」といふ。又古昔放生會ありし名残りなりとて「放生鯉」とも呼ばる。

奈良縣添上郡佐保村 法華寺 犬守 (土)

寺より之を受けて歸り祀り置くときは其子長壽を得といふ。安産の守とするものと同じ。

愛知縣幡豆郡花明村大字花藏寺 地藏堂 括り猿 (布)

小兒の延命長壽を祈つてくゝり猿を布にて縫ひ、之を多數繋ぎ、白扇をひろげその邊緣の處々に之をつるし、姓名年齢を記して地藏堂に奉納す。

同縣同郡同村同 桃 (布)

前者と同様に地藏堂に奉納し延命長壽を祈る。桃の縫ひくるみとくゝり猿とを共につるす場合多し。

山口縣阿武郡萩町 並木松の茶屋 鶯屋オヤコーガケ (藁、布、紙)

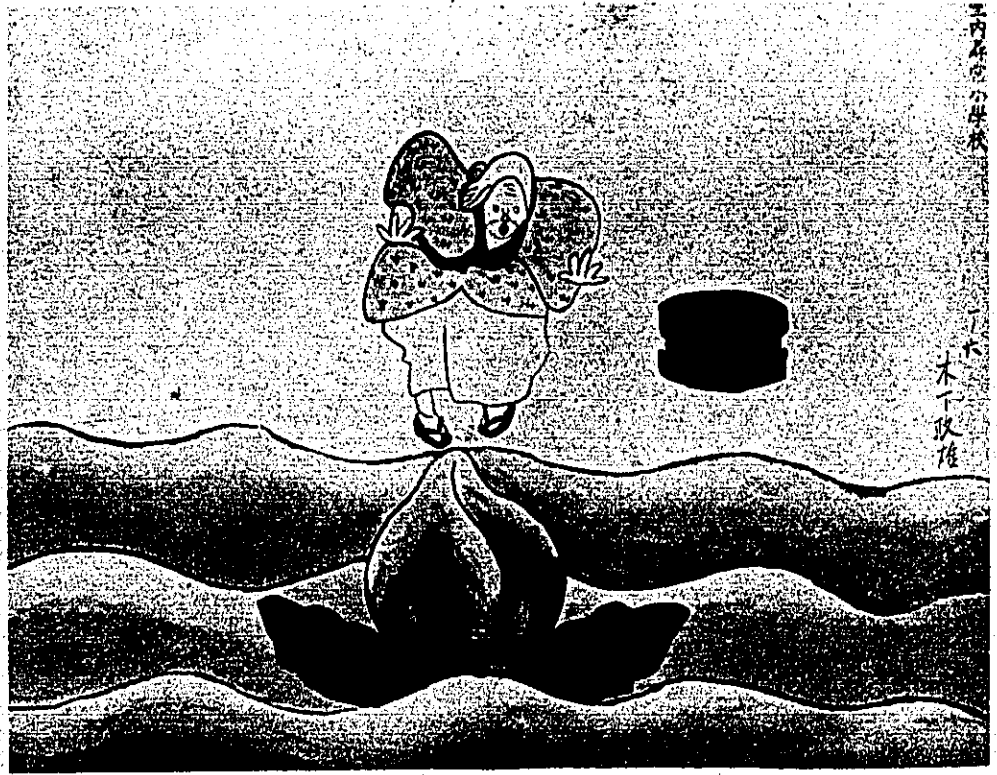
小兒誕生に至りし時、此コーガケを穿かして「歩き初め」を行ひ、早くしつかり歩み無事に生育す

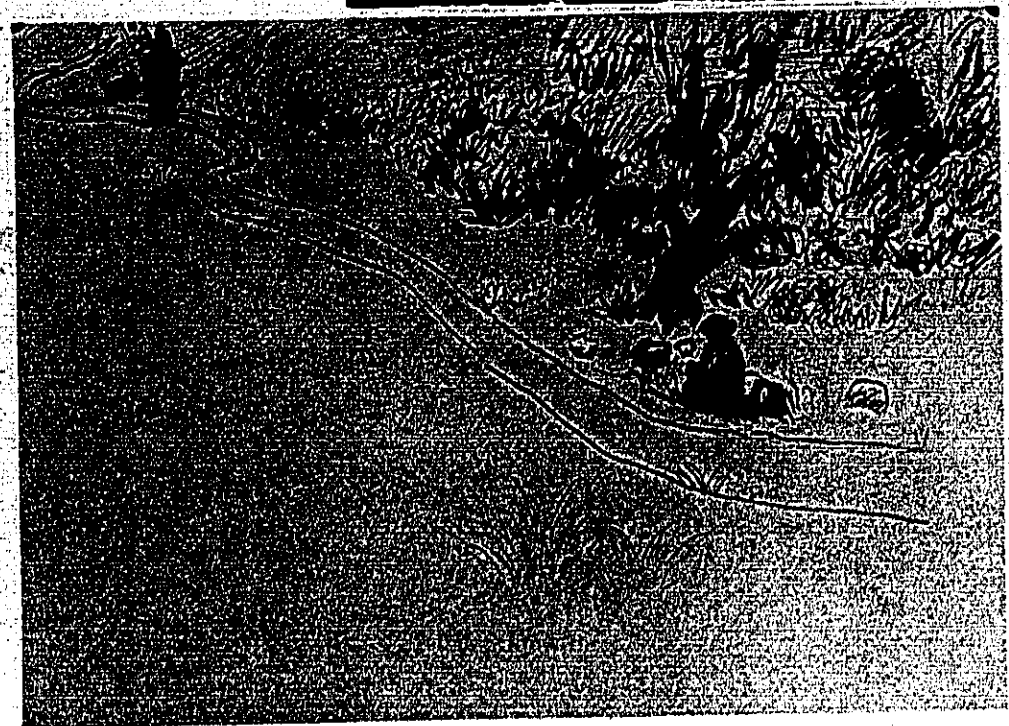
るやうに祈る。此地方にて「早く足がつくやうに」といふ。

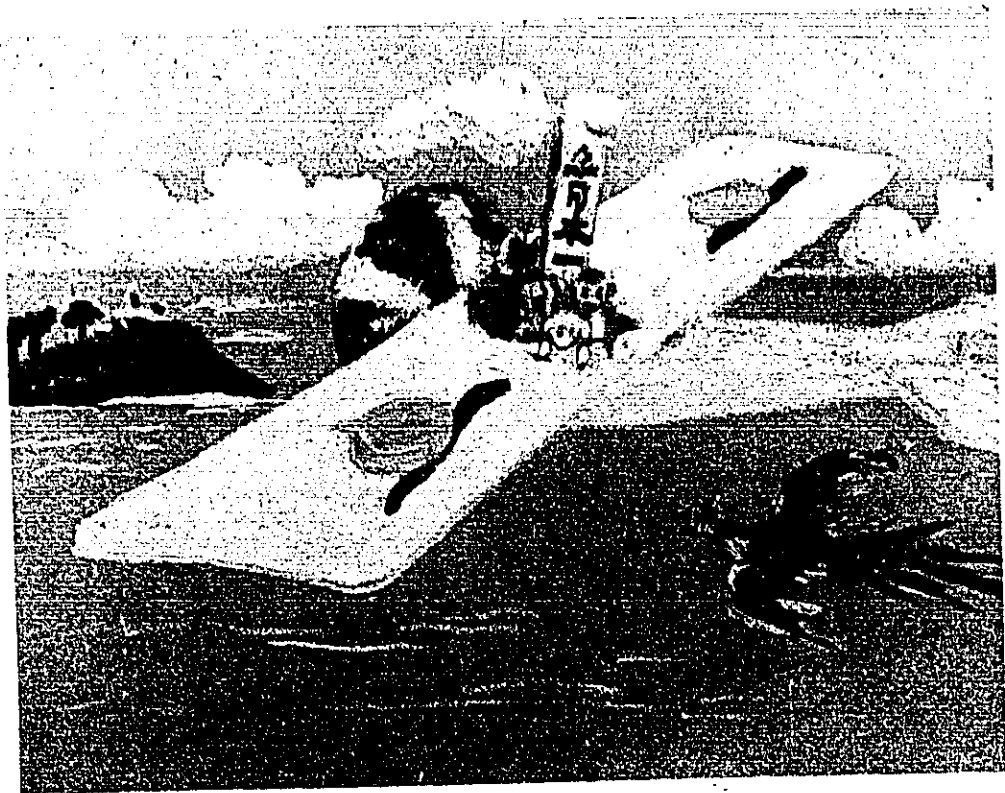
山口縣阿武郡萩町地方 ネブリコ(オシヤブリ) (木)

小兒生れて男は百十日、女は百二十日目(女は罪多き爲日を遅くすといひ傳ふ)に氏神の八幡社に參詣す(宮詣り)之を「モ、カマ井リ」と云ひ、涎かけと帽子と初着とを身につけ連れ行く、其際親戚知己より祝として之を贈る。

(昭和四年三月末調)









桃太郎の繪畫に表れたる兒童の世界

神戸市立兒童相談所
神戸市主事 田中政太

神戸の童話童話劇等に盡力して居る人々の大同團結として神戸子ども愛護協會なるものがあり、毎年桃太郎祭とかコードモ大會等によつて兒童愛護の爲に氣を吐いて居るが、昭和三年五月下旬桃太郎祭開催に當り、神戸三越樓上を借り、兒童相談所と共同主催の下に桃太郎に関する展覽會を開き、桃太郎に関する文献骨董玩具等を聚集し、同時に神戸市内小學校幼稚園兒童より桃太郎に関する繪畫及び手工品を募集して展覽に供した、日本に於ても初めての試みであるし、桃太郎は最も兒童に親しみ探くはあるし、會場の都合上繪畫は各校六點以下に限定したが、多大の反響を喚起して、繪畫だけでも左記の如く集つた

第一表

學	年	幼	稚	I	II	III	IV	V	VI	計	不	明
---	---	---	---	---	----	-----	----	---	----	---	---	---

計	女	男
	二五	一〇
	三三	一〇
	五一	四
	二〇	五
	二六	四
	二六	四
	四三	五
	一四	三
	一五	三

三〇〇

尙是以外に募集廣告不徹底の爲單なる自由畫（桃太郎に關係なき）が多數持込まれたのは遺憾であつた、尙神戸市内小學校以外に市外遠隔の地より持込まれたのが相當あつたが之は統計から省いた、手工品では某幼稚園の桃太郎が歸つてから開いた賣物の趣向（下駄や時計指輪等兒童に興味あるものばかり陳べてある）大物では某小學校六年生共同製作の五間に亘る鬼征伐の飾物、某幼稚園の一代記、某小學校の同じく一代記を表した精巧な粘土細工（是は善玉悪玉の争鬪として大分哲理化してあつた）等相當見るべきもの、勞を多とすべきものがあつたが、數が少いので同じく統計から省いた、

勿論募集要項としては兒童をして自由に表現せしめて教師等が干涉せざる事は力説したが、前項手工品等に見らるゝ如く教師の暗示が相當に見られ、各校毎に畫風が違ふ等より推しても或る程度の示唆は止むを得まいし、又或教師の所感によるも、此の程度位の表現は自由に出来るこの事である、用具は艶麗な油繪から繊細な鉛筆畫等に迄も亘り、多くはクレパスであつた。

第二表

種別	學年		洗濯	誕生	團子製作	征途	海戰	合戰	降伏	凱旋	單獨等	計
	I	II										
男	I	二										二
	II											四
	III											一五
	III											二
	V											三
	VI											三
計												一〇
女	I											三
	II											一
	III											五
	III											四
	V											四
	VI											一
計												三
幼稚園												二
不明												三
合計												一五

先づ繪畫を桃太郎の一代記によつて履歴別に分つて之を男女別學年別に統計して見ると第二表のようになる。

三〇一

大體から見ると海を背景とした者が最も多く殊に男子はさうである、之は神戸の影響が多分にありはしないか、最も少いのは團子製作で女子に一人しか無い。男女の差の甚しいのは合戦と凱旋である殊に男子は學年の増加につれて數を増すが、映畫の影響があるのではあるまいか、單獨の者が相當多いのは當然であらう、男女によつて應募者の數の差が甚しいのは桃太郎に對する親しみの度の差が大部分の原因であらう、女兒に對する桃太郎に代るべきい、童話が欲しいものである、幼稚園兒の特徴としては洗濯誕生の多い事で、之は比較的低學年に多い(男兒六年を除いて)

三

一々の項に就いて尙細説すると、洗濯では桃だけ流れて居るのが幼稚園兒に二つあつた丈けで後はおばあさんが皆ついて居る、お爺さんが柴刈に行く所を遠景にしたのは一つしか無かつた。

誕生は幼稚園兒の單燭が四人、男兒が五人、他は皆おぢいさんおばあさんつき、之は喜悅及び驚愕の表情が子供と思へない位よく出て居たのがある、中にある小學校の者は、外の項もさうだつたが多分の滑稽味があつて漫畫化して居た。尙此項に入れて置いたが、幼年の畫の中に、誕生の側に團子があり弓矢等出陣の用意迄も表現してあつたのは、兒童心理上面白いと思つた、

征途では家を離れて行く所が五年女子に一人、犬、猿、雉各一匹づゝ連れたのが各男子に一人、女

子に雉だけの供が一人、後七人は皆三匹共であつた、中に猿が待つて居て遙かに桃太郎の見ゆる鉛筆畫の構圖は老練を思はしむる者がある。

海では岸で鬼が島を遠望する者が九、船による者が十二、飛行機による者が二人あつた、岸で面白いのは桃太郎が三匹と共に沙上に座して地圖を按じて居る構圖、桃太郎等がむしろ副となる位見事な岸風景となれる者。

船では軍艦上に軍服の一行といふようなのが三つもあり、珍らしいのは飛行機であつた、是等は昭和の桃太郎といふような新解釋の影響を多分に受けて居る、尙海岸に桃太郎一人居る者の中で映畫俳優の百々之助そつくりなのがある。其他概して桃太郎の容貌が故尾上松之助とか月形とかに似て居るのが相當にあつた。

合戦は門前が三、亂闘が十一、桃太郎一人が二、犬と鬼との闘が一、何れも映畫の影響を受けて居るのがあざやかなもので、潑刺たる立廻り、深刻な表情、殊に鬼の鬼氣迫るものがある、中に伯父さんの面白いお話しとして、張扇を叩いて居る側で聞いて居るのが、煙の形に延長させて合戦の場面を表現して居た者があつた。

降伏は書くべき事もない。